

産学で「琉大ゴールド」開発



琉球大学は12日、琉球バイオリソース開発(本部町)との産学連携で開発した秋ウコンの新品種「琉大ゴールド」が、2月に農林水産省から品種登録を受けたことを発表

秋ウコン新品種登録

表した。通常の沖縄在来種と比べ薬効成分クルクミンの含有量が7〜20倍に上り、収量も多いなどの特徴がある。琉球大学からの品種登録は初めて。開発したのは同大農学部付属亜熱帯フィールド科学教育研究センターのモハマド・アム

高い薬効成分、「バイオリソース」と

開発した「琉大ゴールド」を手にするモハマド・アムザド・ホサイン准教授
12日、琉球大学



ザド・ホサイン准教授を中心としたグループ。ホサイン准教授は1999年からウコンの研究を始め、海外から68系統の秋ウコンを収集し品種改良を重ねた。2006年に農

水省に品種登録を出願。同省の栽培試験を経て2月29日付で登録された。

琉大ゴールドは在来種に比べクルクミン含有量が高いだけでなく①根の茎が太く収量が高い②根の数が少なく土落としなどの収穫作業が省力化できる③草丈が低いため台風時に倒れる被害が少ない④味や香りが良いーなど好条件がそろっている。

昨年11月には琉球フロント沖縄(那覇市)が琉大ゴールドを使った飲料「生搾りウコン 翌ケロゴールド」を商品化。県内でも販売されている。